

# 第11回伊豆沼・内沼自然再生協議会 会議録

## I 日時

平成29年2月18日（土）午前10時から正午まで

## II 場所

栗原市市民活動支援センター 多目的室

## III 次第

1 開 会

2 挨拶

3 議 題

(1) 報告事項

① 平成28年度伊豆沼・内沼自然再生事業等について

② 伊豆沼・内沼を利用したイベント等について

(2) 協議事項

① 平成29年度事業計画（案）について

② 伊豆沼・内沼自然再生全体構想の見直しについて

(3) その他

○ 伊豆沼2工区農地整備事業の施工計画について

4 閉 会

### 【配布資料】

（本資料） 次第・名簿・席次表

資料1-1 平成28年度伊豆沼・内沼自然再生協議会資料

資料1-2 平成28年度伊豆沼・内沼自然再生事業水質改善効果検討調査業務

資料1-3 平成28年度伊豆沼・内沼自然再生事業関係 活動実績

資料2 伊豆沼・内沼を利用したイベント等について

資料3-1 平成29年度自然再生関連事業計画（案）

資料3-2 伊豆沼・内沼自然再生事業水質改善検討業務（案）（平成29年度）

資料4 伊豆沼・内沼自然再生全体構想の見直しについて

資料5 伊豆沼2工区農地整備事業の施工計画について

## IV 会議内容

### 1 開 会

- ・ 事務局が開会を宣言
- ・ 新委員の紹介 (有) 伊豆沼農産代表取締役 伊藤委員  
(一社) くりはらツーリズムネットワーク 事務局長 大場委員
- ・ 定足数の確認 (開会時24名の委員が出席しており, 協議会規約第9条第3項の規定により会議が成立していることを宣言)
- ・ 公開・非公開の別 (規約第10条第1項の規定により公開とする)
- ・ 配布資料の確認

### 2 挨拶

西村会長: 貴重な時間にお集まりいただき御礼申し上げます。平成20年に第1回を開催してから、この時期にこちらに通わせてもらっているが、まったく雪がない。これだけ雪のない冬の伊豆沼にくるのは初めて。温暖化の影響が心配になった。たった10年だが気候変動が確実に起こっているのではないかと。伊豆沼だけではなく、世界中で様々な異常気象が起こっていて、環境問題の深刻化を懸念している。

自然再生協議会での努力が温暖化で帳消しになる可能性もある。全体構想から7年経ち、10年計画の最終盤の3年にさしかかる。自然再生協議会としては最後の3年間。これまで活動したことを踏まえて、成果を基盤にしつつ何らかのまとめと、次の10年への方針を出したいと思っている。

本日も時間はタイトだと思うが、できるだけ忌憚のない意見をいただいて、最後の3年を迎えたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

(協議会規約第9条第1項に基づき、議事が司会から座長に移行された)

### 3- (1) 報告事項

平成28年度伊豆沼・内沼自然再生事業等について

伊豆沼・内沼を利用したイベント等について

西村会長： 報告事項について一括して事務局から説明願う。

事務局： (資料1-1に基づき説明)

事務局： (資料1-2に基づき説明)

事務局： (資料1-3及び資料2に基づき説明)

西村会長： 今の説明について、御質問・御意見はあるか。

斉藤委員： ヌカエビが増えているという話だが、去年以前の調査の結果では伊豆沼ではヌカエビは捕れずに、外来生物のカワリヌマエビ属だけが捕れるとある。その点はどうか。

事務局： 今現在、沼の中に両種いるような状態で両方とも増えている。見分けが難しいものの両種とも増えている。傾向としては、内沼はヌカエビが多く、伊豆沼ではカワリヌマエビが多い印象がある。集計の上では両種を一緒に扱っている。

斉藤委員： 割合を含めて調査してほしい。自然再生事業では外来種は好ましくないと思う。カワリヌマエビは大きく、幅があり、やや固いので、食感が違うと思う。漁業の面でも全く同等とは言えないので、区別してほしい。

西村会長： 他に何かあるか。今回からご参加いただいている、伊藤委員と大場委員から資料についてコメントをいただきたい。

伊藤委員： 昔は地域住民が伊豆沼に関わっていた。例えば畜産家は、土手の草を利用して。理念で言うワイズユースの典型だったと思っているが、最近は地域住民も「これをしたらだめ」というイメージを持っている。そうしたイメージを払拭する取組も全体的には必要かと思っている。

登米市では環境条例を作っていて、産業と自然の共生をうたっていて、「自然はただ

守れ」ではなく、産業に結びつけることによって、さらに自然を良くしていこうという条例になっている。

そうした意味でも地域住民が関わることで出た利益で、伊豆沼を保全するイメージでやっていただければと思う。

大場委員： 普段の活動は、マガンの観察をしたり、ヨシ刈りをしてクラフトをしたり、伊豆沼回りのレンコンや田んぼを作ったり、しめ縄を作ったりしている。カワリヌマエビがいるということを理解していなかったの、そのことを知っただけでもすごい収穫だと思った。私たちが食文化を紹介するのに、エビ餅を代表的な餅料理として紹介する機会が多いので、その際によくヌマエビを観察してみたいと思う。私たちは、自然に対しては表面的な活動で、そこから人がどう関わるかということを中心に活動しているが、なにかしらこうした研究や保全活動に私たちのような団体が担えるところがあればいいなと思っている。

西村会長： 自然再生の目標としては、賢明な利用ということが重要であり、これから益々重要性を増している。

何か御質問、御意見あるかもしれないが、時間もかぎられていることから、先に進みたい。

### 3－(2) 協議事項

平成29年度事業計画（案）について

伊豆沼・内沼自然再生全体構想の見直しについて

西村会長： 平成29年度事業計画（案）と伊豆沼・内沼自然再生全体構想の見直しについて一括して説明願う。

事務局：（資料3－1，3－2，4に基づき説明）

西村会長： 今の説明について、御意見、御質問はあればお願いする。

大場委員： 希望と言うことで申し上げます。沼周辺の人と沼の暮らしの関係性は今の世代ではわからなくなっている。親世代からも伝えられてなかったことを今調べていて、自分たちでは体験プログラムというイベントで、みんなで学ぶことを大事にしている。

自分たちの活動も参画できるような事業が次回の構想で入って取り組めればいいと思っている。具体的に言うと、環境省のエコツーリズム推進法というものがあるが、自治体が参画して構想を作ると言うことで団体単独では難しい。将来的には、なにかそうした後世への取組ができるといいと期待している。

西村会長： ありがとうございます。今の件については参考にしてほしい。

伊藤委員： 伊豆沼の水質、水環境について2点伺いたい。

荒川に流れる方の土砂の堆積の話だが、5～60年前ころには東北本線の線路近くまで船が入っていたと聞いている。航空写真を見てもどんどん堆積が増え、水の流れが悪くなっているような気がする。荒川の出口のところの改修は出来ないのだろうか。また、登米市と栗原市が担当行政だが、我々からすると県では無く登米市と栗原市の行政同士の協調も前面に出ても良いのではないかと印象を受ける。昔は迫町と若柳町及び築館町が一体となり地元のことを考えていた。また、サンクチュアリセンターが3つあるが、その活用・連携もあるととっても良いのではないか。地元民を巻き込むという意味でも、そうした連携の場をお互い作っていただければと思う。

西委員代理： 荒川出口に治水上問題があるのではないかと話をいただいたが、迫川流域全体の治水としては、下流の安全を長沼ダムの完成により確保できた。我々河川サイドの計画としては、伊豆沼と飯土井のあたりを「一つの沼」として計画上考えている。飯土井のあたりの堤防がまだ完成していないことから、そうしたものを進めながらやっていきたいと考えている。荒川出口については、JR 等との関係もあるので、事務所に確認したいと思う。

伊藤委員： 堆積土がたまっても流れが悪くなっていると言うのは間違いはないか。

西委員代理： 県道の橋が狭いということが一番の問題だと思う。

安部委員： JR のところの陸橋だが，土砂が堆積して大変狭くなっている。豪雨で伊豆沼に水が溜まった際に早く排水するためには，その場所を拡幅したら良いのではないかと関係者は皆言っている。土木部にも要請したことはあるが，中々していただけない。

近年，伊豆沼に飯土井水門ができ，伊豆沼の水はそれなりに水位を確保しているのですが，雨が降るとすぐに水が溜まるようになった。3年前には豪雨で越水する寸前になった。そこまですべても，荒川の流れが悪いため迫川が渇水することになっている。是非，考えていただきたい。

西委員代理： 御意見は承った。しかしながら，伊豆沼は巨大であり，荒川出口を拡幅しても急激に状況が改善するとは考えにくいということも御理解いただきたい。

安部委員： 伊豆沼自体は荒川の一部であるので，急激にではなくとも流れを良くする必要はあるのではないかと。かつては新田駅の近くにもう一箇所陸橋があった。そういう方法も確かめてもらいたい。

西村会長： 貴重な御意見をいただいた。水質・水流・流量は河川にとって大切なものだと思う。協議会は様々な意見を出させていただくので，できることは是非やっていただきたい。

斉藤委員： 伊豆沼の周辺の湿地に入会権はないのか。慣習的にでもあったのであれば，伊藤委員の先のご発言については，それで済む話がかなり有ると思うのだが。

事務局： 現段階で当方では資料を有していない。

川嶋委員： 昭和40年頃から伊豆沼の水質は極端に悪化しているが、上下水道が発達し、様々な取組で今の伊豆沼が保たれている。

伊豆沼への流入口は水質が良いように見えるが、昭和40年以前のデータと現在のデータの比較検討をしても良いのではないか。ここには生活排水・農業排水が流入しているが、これらが大分改善しているという感覚を持っている。定点測定する意義はあるのではないか。

西村会長： 水質検査については検討していきたい。また、A3資料に「生活系負荷の低減」とあり、農業系統では環境保全型農業でも面積が増えているということもあり、各関係機関の努力が見える。こうした地道な活動が自然再生の基盤となる事業だと思う。

岡部(泰)類： 長沼のはすまつりのイベント事業も含めて長沼の利用・活用の会議にも出席しているが、登米市の環境に対する対応が今ひとつだと感じている。栗原の方に行くと周辺が完全に整理されていて、ハス祭りでも3万人程度集まっているが、登米市の方は駐車場も荒れている。栗原市・登米市・一関市・平泉町の連携もあるので、自然と文化の推進も含めて連携をとって広域的な保全活動をして欲しい。

西村委員： 協議会としては働きかけていきたいと思う。

三塚委員： 私の所属している団体では「ノーバスネット」から20万円、「日本財団」から50万円の助成金をもらい溜池の池干しをしているが、これをしないと下流への影響が出てくる。人件費を考えないと来年度以降の事業ができないので、予算措置を考えてもらえないか。おそらくこれまでの助成金では足りなくなる。

また、絶滅危惧種の資料についてはインターネットで公表しない方が良いのではないか。マニアが集まってくる。実際に、上沼流域の下流の方では県外ナンバーの車がいて捕っている。

溜池の所有者は市で、管理は地元の組合に任せられている。根こそぎ希少生物をとっていく者が出た場合、誰がどうやって阻止できるのか。何らかの規制を考える時期にきたのではないかと考えている。

事務局： 全体構想の見直し等の際に参考にさせていただきたい。

西村会長： 希少種を保護すること、外来種駆除は成果があがっているが、その成果を保つことが大切。今年度も既に成果は出つつあるが、只今の観点での対応は必要な段階だと思う。外来種問題がこれだけ難しくなったのは、基本的には人間の問題だと感じている。

見直しに関しては、只今の意見を参考に実施するということでよろしいか。

(異議なしと呼ぶものあり)

### 3－(3) その他

西村会長： 昨年度に引続き、伊豆沼周辺の農地整備事業について情報提供願う。

手塚班長： (資料5に基づき説明)

西村会長： 今の説明について、何か質問御意見はあるか。

環境に大変配慮していただいた内容であると評価できるものであり、当協議会での意見を反映していただいたものであると感謝している。また、今後施工されて効果が確認されることを期待している。他に連絡事項があるか。

(嶋田委員より「伊豆沼・内沼研究集会」の案内あり)

荒畑委員： エコツアーの推進法では、広報や資源の保全等が行えるが、市町村の参画が必要となっている。検討をしながら進めたいので、まずは情報の共有をお願いしたい。

助成金については、生物多様性保全推進支援事業が利用できると考えるが、



民間組織，地方自治体の参画も必要となっている。東北では2年ほど実施例がないが，近々に公募予定であるので活用を検討して欲しい。

また，希少動植物の保護については環境省全体でも検討しているところであり，情報の共有をお願いしたい。

鳥インフルエンザについては，全国で200件以上，東北でも20件程度発生している。宮城県では11月に発生したが，2月5日までに重点的な監視は解除されている。宮城県では現状発生していないが，今後ともご注意ください。

伊藤委員： 新たに販売する化粧水「はす肌」について説明させていただきたい。

農林水産政策室が窓口となり，東京の化粧品メーカーと協力したもの。県の方には被災地と連携したいという話が前からあり，伊豆沼のハスのエキスと乳酸菌を使った商品を開発した。売り上げの3%は財団の方に寄付させていただく。是非奥様方にお勧め願いたい。

西村会長： 他に御意見がないようなら，貴重な御意見をたくさんいただいたので見直しに反映させていただきたい。

(会長から事務局に進行を返還)

#### 4 閉会

事務局が閉会を宣言